

工業系大学における学生の性格傾向に  
関する一考察

伊藤 直樹

# 工業系大学における学生の性格傾向に 関する一考察

伊藤 直樹

## 1. 問題と目的

大学生の質が変わってきたという話を度々耳にするようになってきた。それは、学生の学力的な側面の変化、たとえば、「基礎的な学力が低下してきた」、「理解力・思考力が身につけていない」などといったことに限らず、学生の性格的な側面においても、たとえば、「社会性の面で未熟である」、「忍耐力が低下した」、「自己表現が苦手である」というように、様々な面で変化が見られるといったものである。学生相談に携わる他の相談員や、一般の大学教職員からも、このような最近の学生の性格傾向の変化について耳にすることは決して少なくない。

もっとも、いつの時代においても、「最近の若い人は……」ということは必ず言われるものであり、日頃の学生との交流のみから、学生の質が変化したと結論づけるのは早急すぎるかもしれない。

さて、近年の18歳人口の急激な減少により、大学は学生に対して学問や知識体系を教授するだけでは済まされい状況となってきた。文部省の調査（文部省高等教育局学生課，2000）からも察せられるように、大学側が学生生活を充実させるよう、いかに配慮していくかという視点が、かなりの比重で問われる時代となってきたわけである。それどころか、学生生活の充実に向けて積極的に配慮するという視点なくしては、学生数を確保できず、経営的に困難な状況に陥る時代となってきたと言っても過言ではないであろう。学生の理系離れが続く中、このような状況は工業系大学においては深刻な問題である。

それでは、学生生活をより充実したものにするためには、どのようなことが必要であろうか？ これには様々なアプローチの仕方が考えられようが、その一つとして、学生自身が学生生活についてどのように感じている

か、どのようなニーズを持っているかを知ることが挙げられよう。また、大学にどのような性格傾向を持つ学生が多いのかということについて、教職員が理解を深めることにより、その大学の学生に適した教育サービスの提供に役立てることもその一つとなろう。

そこで、本研究では、工業系大学における学生の性格の一般的な傾向を明らかにするために、ある工業系大学で調査を実施することにした。これまで、大学生一般を対象にした調査は数多く行われているが、特に工業系大学の学生を対象にして、その性格傾向について調査を行った研究は少ない。したがって、学生の性格傾向に関する調査による示唆と、心理学的な考察は、工業系大学の教育全体に資するものであると考える。

## 2. 方 法

- (1) 調査時期：2000年6月
- (2) 調査対象：X大学（工業系大学）における心理学系の講義の受講者251人のうち、研究への協力を承諾が得られた学生218人である。
- (3) 調査手順：講義時間内の一部を使い、筆者が調査の趣旨を説明した上で研究への協力を依頼した。調査は質問紙調査の一斉実施方式で行った。回答に要した時間はおよそ10～15分であった。
- (4) 性格傾向の測定のための用具

学生の性格傾向を測定するための用具として、TEG（東大式エゴグラム）（東京大学医学部心療内科TEG研究会（編），1999a）を用いた。TEGは55問の質問に対して、「はい」、「いいえ」、「どちらでもない」の3件法で回答する質問紙方式の検査である。回答の結果は、CP得点（良心や理想の高さを見る尺度）、NP得点（親切心や面倒見のよさを見る尺度）、A得点（現実的・客観的な判断・対処能力を見る尺度）、FC得点（自分の欲求や感情をどのくらい表現するかを見る尺度）、AC得点（集団への協調性を見る尺度）に分類される。

TEGは学生相談の場で多く用いられる性格検査の一つである（例えば、佐藤（2000）など）。この検査を用いたのは、比較的項目数が少なく、学生への負担が少なくすむこと、すでに、統計的な信頼性、妥当性が検証されていること、性格をタイプ別に分類して検討することが可能であること、また、学生自身が結果を容易に採点でき、自ら

の性格傾向を理解するという点で学生にも利益があり、このため心理学系の授業の一貫として行うことにも意義があると考えたためである。

なお、実際の調査時には、大学生生活への適応の程度をたずねる質問紙も同時に実施したが、その結果については、本稿では扱わない。

### 3. 結果

#### (1) 分析の対象となった被験者

調査対象となった218人の被験者のうち、性格検査項目、大学生生活への適応の程度をたずねる質問紙ともに欠損値のなかった被験者211人を分析の対象とした。211人の性別・学年・学科の内訳は表1の通りである。

まず、CP, NP, A, FC, ACの各尺度の平均得点について、性別、学年、学科による差異を検討することを考えたが、表1にあるように、今回の調査では、女子が全体で9人、1年生のP学科の学生が1人、2年生のR学科の女子が1人、3年生のQ学科が0人、3年生のR学科の男子が1人と、分布に大きな偏りが見られたため、被験者の学年・学科による差異は取り上げず、以後、被験者全体の傾向と男女別の傾向についてのみ分析を行うこととした。なお、女子の被験者が少数であったにもかかわらず、男女別の傾向については扱うこととしたのは、TEGが男女別に標準化されているからである。

#### (2) TEG各尺度得点から見た性格傾向

男女別に見たCP, NP, A, FC, ACの各尺度の平均得点、標準偏差を表2・表3に示す。X大学の男子得点を、TEGを標準化した際の集団の得

表1 分析の対象となった被験者の内訳

	P 学科(機械系)	Q 学科(化学系)	R 学科(電子系)	計
1 年生	1	10	125	136
2 年生	43(4)	14(4)	12(1)	69(9)
3 年生	5	0	1	6
計	49(4)	24(4)	138(1)	211(9)

1) 括弧内は女子の人数。

点と比較したところ、CP、NP、A、FC尺度では、標準化時の集団に比べて有意に得点が低く、AC尺度では、有意に得点が高かった(表2)。この結果から、X大学の男子学生の全体的な傾向を簡単に述べると、集団への協調性は高い方であるが、良心や理想、他者に対する親切心や面倒見のよさ、現実的・客観的な判断・対処能力は高い方ではなく、また、自分の欲求や感情を自由に表現する方ではないということになる。

一方、女子学生は、CP、A尺度で有意に得点が高く、NP、AC尺度で有意に得点が低かった(表3)。この結果から、女子学生の全体的な傾向は、

表2 TEGの各尺度得点(男子)

尺度	X大学男子(n=202) 平均(標準偏差)	標準化時男性(n=1674) 平均(標準偏差)	t値
CP	8.86(4.60)	10.11(3.95)	-4.19**
NP	12.05(4.84)	13.01(3.94)	-3.20**
A	9.19(4.60)	11.39(4.23)	-6.96**
FC	11.25(4.92)	12.34(4.10)	-3.50**
AC	11.31(4.64)	9.10(4.29)	7.51**

1) \*\*:  $p < .01$

2) 標準化時のデータは東京大学医学部心療内科 TEG 研究会(1999b)による。

表3 TEGの各尺度得点(女子)

尺度	X大学女子(n=9) 平均(標準偏差)	標準化時女性(n=1649) 平均(標準偏差)	t値
CP	11.67(3.08)	9.55(3.97)	4.55**
NP	12.78(5.49)	13.82(3.86)	-2.40*
A	12.11(5.42)	9.66(3.94)	5.53**
FC	13.11(4.37)	12.34(4.10)	1.67
AC	7.33(4.15)	9.40(4.31)	-4.29**

1) \*:  $p < .05$ , \*\*:  $p < .01$

2) 標準化時のデータは東京大学医学部心療内科 TEG 研究会(1999b)による。

良心や理想，現実的・客観的な判断・対処能力は高く，他者に対する親切心や面倒見，集団への協調性は低い方であるということになる。

### (3) エゴグラム・パターンから見た特徴

#### ①エゴグラム・パターンについて

次に，被験者のエゴグラム・パターンから性格傾向の特徴を見ることにする。TEGは，CP，NP，A，FC，ACの各尺度の得点を標準化した値により，個々の被検査者のエゴグラムを描き，そのパターンにより，被検査者の性格を判断することができる。また，東京大学医学部心療内科（1995）では，このエゴグラムのパターンにより，被検査者を29のタイプに分類し，性格を理解できるようになっている。さらに，各タイプの出現率についても示されている。そこで，この分類を用いて，被験者の性格のエゴグラム・パターンの分類を行い，さらに，X大学の学生の特徴を明らかにすることを試みた。

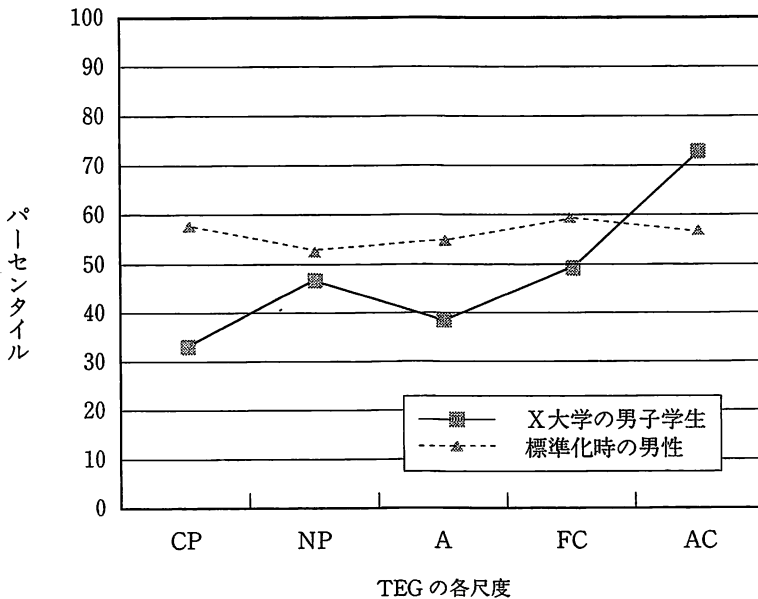


図1 男子学生のエゴグラム・プロフィール

なお、各パターンがどのような特徴を有しているかについてであるが、被験者に性格検査のフィードバックをするために、筆者が TEG 研究会 (1991) と東京大学医学部心療内科 (1995) に基づいて作成した性格解釈を資料 1 に示したので参照されたい。

## ②男女別に見たエゴグラム・パターン

TEG 検査用紙のエゴグラム作成用のグラフ用紙にならって男女別の平均得点を図示したものが、図 1、図 2 である。男子は AC 優位型、女子は逆 N (1) 型に分類される。この結果から、X 大学の平均的な男子学生の性格傾向を資料 1 の記述に従って簡単に述べると、「真面目で努力家であり、頼まれたことはコツコツと最後までやり抜く根気強い」タイプであり、また、「協調性にも富み、まわりの人ともうまくやっけていける」タイプであると言える。同様に、女子学生は、「物事を合理的に考える」タイプであり、「現実場面で遭遇するさまざまな問題も適切にこなすことができる」タイプで

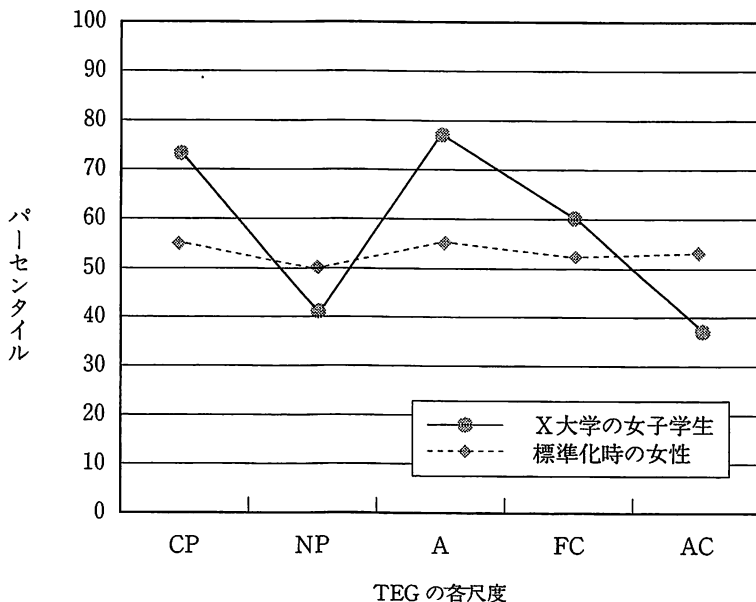


図 2 女子学生のエゴグラム・プロフィール

あると言える。

### ③被験者ごとのエゴグラム・パターン

次に、同様な方法で被験者 211 人の個人個人の得点パターンを分類したところ、198 人が分類できた。残りの 13 人については、適切なエゴグラム・パターンが見当たらなかったため、分析の対象から除外した。

この分類に基づき、被験者に TEG による性格解釈をフィードバックしたあと、それがどの程度自分の性格に当てはまっていたかをたずねたところ、表 4 のような結果が得られた。これを見ると、TEG による性格解釈が「非常によく当たっている」と思った被験者が 27.0%、「まあまあ当たっている」と思った被験者が 58.4%であることがわかる。すなわち、あわせて 85.4%の被験者が何らかの形で当たっていると答えていることになる(被験者の人数が調査時と異なるのは、調査を行った講義とフィードバックを行った講義で出席していた学生数が異なるためである。)。したがって、本研究における分類は被験者自身の自己評価の点からみても適切であったと言える。

この分類を東京大学医学部心療内科(1995)における大集団を対象にした調査の結果と比較したところ、表 5 のようになった。A 優位型、AC 優位型、N(1) 型、平坦(2) 型で 1%水準で優位な差が、CP 優位型、NP 優位型、FC 優位型、台形(1) 型、N(3) 型で 5%水準で優位な差が見られた。これらの結果から X 大学の学生の得点を標準化時の集団と比較すると、AC 優位型、N(1) 型、N(3) 型に分類される比率が有意に大きく、CP 優位型、NP 優位型、A 優位型、FC 優位型、台形(1) 型、平坦(2) 型に分類される比率が有意に小さいと言える。

表 4 TEG 性格検査の結果についての学生の自己評価

自己評価	人数	割合(%)
非常によく当たっていると思った	48	27.0
まあまあ当たっていると思った	104	58.4
どちらとも言えない	19	10.7
あまり当たっていないと思った	6	3.4
まったく当たっていないと思った	1	0.6
計	178	100.0



表5 エゴグラム・パターンの分布

タイプ名	本調査における 該当者数	被験者に対する 割合(%) (n = 198)	東京大学医学部心療内科(1995) における分布(%) (n = 4584)	z 値
CP 優位型	1	0.5	3.4	-2.25*
NP 優位型	7(1)	3.5	7.7	-2.21*
A 優位型	4	2.0	8.1	-3.16**
FC 優位型	6(1)	3.0	6.8	-2.13*
AC 優位型	29	14.6	6.1	4.79**
CP 低位型	4	2.0	2.1	-1.10
NP 低位型	8	4.0	2.8	1.01
A 低位型	5(1)	2.5	4.8	-1.51
FC 低位型	5	2.5	4.7	-1.46
AC低位型	3	1.5	3.1	-1.30
台形(1)型	1(1)	0.5	3.5	-2.30*
台形(2)型	1	0.5	1.2	-0.89
台形(3)型	2	1.0	1.8	-0.84
U(1)型	2	1.0	2.6	-1.42
U(2)型	0	0.0	1.1	-1.46
U(3)型	1	0.5	1.1	-0.80
N(1)型	40	20.2	4.1	10.46**
N(2)型	12	6.1	4.1	1.38
N(3)型	8(1)	4.0	1.8	2.24*
逆N(1)型	7	3.5	4.0	-0.35
逆N(2)型	11(1)	5.6	3.2	1.87
逆N(3)型	5(1)	2.5	1.9	0.61
M型	17	8.6	5.5	1.87
W型	10(1)	5.1	3.3	1.38
平坦(1)型	4	2.0	1.4	0.71
平坦(2)型	4	2.0	7.9	-3.07**
平坦(3)型	1	0.5	0.3	0.51
P 優位型	1	0.5	0.9	0.59
C 優位型	0	0.0	1.1	-1.46
	198(8)	100.0	100.0	

1) \*:  $p < .05$ , \*\*:  $p < .01$ 

2) 括弧内は女子の人数

資料1の記述に従って簡単に述べると、「真面目で努力家であり、頼まれたことはコツコツと最後までやり抜く根気強い」タイプ、「何事にも一生懸命で物事に対して真面目に取り組む」、「他人に対する思いやりの気持ちも強く、また、協調性も持ち合わせている」タイプ、「仕事の能力が高く、不平をもらさず、的確にこなす。また、まわりの人に対する思いやりの気持ちもあり、なおかつ協調性も高い」タイプの比率が比較的大きいということになる。

また、「まわりの人から見ると、頼りがいがあるタイプであり、実際、面倒見もよい」タイプ、「母親的思いやりや優しさを持っていて、頼りがいがあり、面倒見もよい」タイプ、「知的な面で優れ、また、冷静な判断力の持ち主」であり、「まわりの人への思いやり」があるタイプ、「明るく自由奔放」で、「物事を判断する時には、自分の感覚的なセンスを重視し、全体的にひらめきで行動することが多い」タイプ、「健康的で明るい」、「仕事もできるし、遊びも楽しくできる。自分に対しても肯定的に見ることが出来る」タイプ、「何事においても、中庸をめざす」、「人間関係でも、仕事でも、大きな失敗をすることは少ない」タイプの比率が小さいということになる。

#### 4. 考 察

##### (1) 男子学生の特徴

まず、男子学生の特徴から検討する。X大学の男子学生はTEGの全ての尺度において標準化時の集団との間に有意差が見られ、5尺度中4尺度において得点が低かった。TEG研究会(1991)は、全体的に低い得点パターンは、活動するエネルギーが少ないことを意味している場合があることを指摘している。このことから、X大学の男子学生の活動のために用いる精神的なエネルギーが全般的にやや低い傾向がある可能性も考えられる。

次に、各尺度の得点を個別に見ると、標準化時の集団より有意に得点が低かった尺度のうち、A尺度は2.20点と最も差異が大きかった。A尺度は「現実的・客観的な判断・対処能力を見る尺度」とされているので、X大学の学生は、「現実的・客観的な判断・対処」が必要な場面は苦手であると考えられる。学生の抱えているニーズという視点から考えると、こうした側面で教職員からのサポートの必要性が高いのではないだろうか。

また、男子学生全体のエゴグラム・パターンはAC優位型であるが、先述のように、このタイプは、「真面目で努力家であり、頼まれたことはコツコツと最後までやり抜く根気強い」タイプであるのが特徴である。しかし、資料1のAC優位型の記述にも見られるように、「一方で、大きな責任を持たせられると、どうしてよいかわからず、一人で悩んでしまったり、動揺してしまうことがある」という側面もある。したがって、学生に対する教育・指導においては、学生が自分の意志で行動したり、決意する機会を増やすように働きかけることが重要であり、そうした働きかけにより、学生が自信を持ち、本来持っている能力を十分に発揮できるようになる場合があると考えられる。

## (2) 女子学生の特徴

次に、女子学生の特徴について検討する。X大学の女子学生は5尺度中2尺度の得点が標準化時の集団より高く、2尺度の得点が低かった。男子とは異なり、精神的なエネルギーが低いということはないものと思われる。

各尺度得点を個別に見ると、CP、A尺度でそれぞれ標準化時の集団より2.12点、2.45点高かった。逆に、NP、AC尺度では、2.45点、2.07点低かった。男子と同様に、女子もかなり標準化時の集団とは異なる性格傾向を有すると考えられる。また、標準化時の集団の得点との差異も比較的大きいので、性格的には特徴がはっきりした性格の持ち主が多いとも言えるだろう。X大学においては、男子が全学生の約95%を占めている、女子のこうしたはっきりした性格は、圧倒的多数を占める男子の中で自己のアイデンティティを保つためのものであるのかもしれない。

女子の特徴は、先述したように、「物事を合理的に考える」、「現実場面で遭遇するさまざまな問題も適切にこなすことができる」というものである。しかし、資料1の逆N(1)型の記述にもあるように、「自分に対しても他人に対しても要求水準が高い傾向があり」、また、「物事が予定どおり進むのが好きなほうである」ために、「他人がルール破ったり、物事が予定どおりに進まないといライラする場合がある」と考えられる。

このことから、X大学における女子学生が、大学内においては、他者、特に現実的な能力を示すA尺度得点が低い傾向にあるX大学の男子学生に対して、違和感を感じている可能性も考えられる。仮にそうだとしたら、教職員が、女子学生が感じているこのような違和感によく配慮することで、

その違和感が減じられ、より充実した学生生活、あるいは、より適切な教育・指導が可能となるかもしれない。

### (3) エゴグラム・パターン別分類から見た特徴

これまで、男子学生、女子学生の性格傾向の特徴を見てきたが、最後に、X大学の学生全体の性格傾向をエゴグラム・パターンから検討する。

まず、各パターンに分類された人数の観点から検討すると、最も人数が多かったのはN(1)型の40人(20.2%)であり、次に人数が多かったのはAC優位型の29人(14.6%)であった。両パターンとも、東京大学医学部心療内科(1995)における大集団を対象にした調査の結果における割合よりかなり大きな割合である。これらのパターンに分類された人数を合計すると69人(34.8%)となり、被験者の3分の1強に相当する。

すなわち、X大学の学生集団の特徴として、N(1)型やAC優位型のような、ある特定の性格パターンの学生が多いという特徴があることが考えられる。両パターンの共通点は、ACが高く、CPが低いことにある。これは大多数を占める男子学生の得点パターンの傾向を反映したものであるが、こうした極端な傾向は、X大学の学生のコミュニティをかなり特徴的なものとしていると考えられる。

今回の調査では、被験者の64%が1年生であり、また、2年生も含めると97%となる。調査時期が6月であったことから、得られた結果は、大学に入学してからの影響をあまり受けていないであろう。すなわち、入学試験による選抜の段階で、ある特定の性格傾向を持つ学生が多く選抜されている可能性が考えられる。

X大学における入学試験の倍率はここ数年1～3倍であるが、このことから考えると、試験によってある特定の性格傾向を持つ学生が選抜されているというよりも、ある特定の性格傾向を持つ学生がX大学への入学を希望していると考えの方が適切であろう。あるいは、昨今の全国的な傾向であるが、高校から推薦で入学する学生の割合が増えており、推薦という方法が、このような傾向の要因の一つとなっているのかもしれない。

いずれにせよ、これが、X大学に特有な傾向なのか、あるいは、工業系大学全体の特徴なのかということについては、他の大学においても同様な調査を行って明らかにする必要があるだろう。

## 5. まとめと今後の課題

本研究では、ある工業系大学における学生の性格傾向について、TEG を用いて明らかにすることを試みた。その結果、学生の性格傾向にかなり特徴が見られることがわかった。

しかし、本研究に見られるような学生の性格傾向が工業系大学に共通したものであるか否かということについては、他の工業系大学においても調査を行い、再度確認する必要がある。また、TEG 以外の性格検査を用いた研究を行い、他の視点からも検証すれば、工業系大学の学生の性格傾向をより一層浮き彫りにすることができよう。

## 謝 辞

本研究を実施するにあたり、ご協力いただいた X 大学の学生に感謝致します。

## 引用文献

- 文部省高等教育局学生課 2000 大学における学生生活の充実に関する調査について
- 佐藤尚代 2000 大学生の心理的成長をサポートする 1セッション・カウンセリングー東大式エゴグラム (TEG) フィードバックの実践ー, 学生相談研究, 21(1), 34-42.
- TEG 研究会(編) 1991 TEG 活用マニュアル・事例集, 金子書房
- 東京大学医学部心療内科 TEG 研究会(編) 1999a 新版 TEG, 金子書房
- 東京大学医学部心療内科 TEG 研究会(編) 1999b 新版 TEG 実施マニュアル, 金子書房
- 東京大学医学部心療内科 1995 新版エゴグラム・パターンーTEG (東大式エゴグラム) 第 2 版による性格分析ー, 金子書房

## 資料1 各エゴグラム・パターンの特徴（その1）

エゴグラム・パターン	得点パターン	TEGによる性格解釈
CP 優位型	CP：高	まわりの人から見ると、頼りがいがあるタイプであり、実際、面倒見もよい方である。また、責任感が強く、何事にも冷静な判断を下すことができる。しかし、自分に対しても他人に対しても厳しく、何でも自分の手でやらないと気がすまない面があるために、心身ともに疲れやすい。
NP 優位型	NP：高	母親的思いやりや優しさを持っていて、頼りがいがあり、面倒見もよいほうである。生活を適度に楽しみ、現実とも妥協できる柔軟さを持ち合わせている。自分に対しても他人に対しても肯定的に見ることができる人である。ときに、親切心が行きすぎて、お節介になってしまうときもある。
A 優位型	A：高	知的な面で優れ、また、冷静な判断力の持ち主でもある。同時に、まわりの人への思いやりもあり、遊び心も兼ね備えていて、人生をエンジョイすることができる。全体的にバランスの取れたタイプであろう。CP、AC得点が平均以下の場合には、自分の判断だけで行動してしまいがちな。
FC 優位型	FC：高	明るく自由奔放にふるまうタイプである。物事を判断する時には、自分の感覚的なセンスを重視し、全体的にひらめきで行動することが多いと思われる。このため、創造的な仕事のほうが、自分の能力を発揮しやすい。物事がうまくいっているときはいいが、調子が狂い始めると感情の起伏が激しくなり、イライラした状態になりやすくなる場合がある。
AC 優位型	AC：高	真面目で努力家であり、頼まれたことはコツコツと最後までやり抜く根気強いタイプである。また、協調性にも富み、まわりの人ともうまくやっていける。全体的に行動は慎重なほうである。大きな責任を持たせられると、どうしてよいかわからず、一人で悩んでしまったり、動揺してしまうことがある。

## 資料1 各エゴグラム・パターンの特徴（その2）

エゴグラム・パターン	得点パターン	TEGによる性格解釈
CP 低位型	CP：低	<p>穏やかで屈託のない性格の持ち主であり、どちらかと言えば、のんびりペースの人であろう。何が起きても、それをそのまま受け入れる方であるため、他人とトラブルを起こしたりすることは少ないほうである。反面、自分や他人に厳しく要求したり、非常に努力を必要とするような仕事は苦手な場合が見られる。</p>
NP 低位型	NP：低	<p>責任感が強く、物事を批判的に分析する能力に優れている。また、自分に対しても他人に対しても厳しい目で見るといふ一面も持っている。そのわりに、まわりの人の気持ちを気にしすぎることもあり、一人で気にやんでしまってクヨクヨしたり、イライラしたりすることもある。</p>
A 低位型	A：低	<p>全体的に責任感が強く、真面目な性格の持ち主と言える。また、物事を批判する能力に優れている。理想は高く持つほうであるが、一方で、合理的に考えたり、客観的に物事をとらえるのはそれほど得意ではない。そのため、現実には、自分の理想を実現できない場合もあり、気持ちが空回りしてクヨクヨ考えてしまう場合もある。</p>
FC 低位型	FC：低	<p>責任感が強く、まわりの人への思いやりもあり、協調性も高い人であろう。また、真面目で、どちらかと言えば、おとなしい性格である。そのこともあって、自分に任された仕事には忍耐強く取り組み、黙々とこなすという一面も持っている。そのため、集団の中で目立つというわけではないが、まわりの人にとってはとても貴重な存在と思われている。</p>
AC 低位型	AC：低	<p>責任感が強く、仕事の能力も高いので、何でも適切にこなせる方である。また、思いやりもあり、明るく、さばけた人柄であると思われる。しかし、何をやるにしてもスムーズにできてしまう場合が多いので、つつい自分のペースで物事を進めてしまいがちになることがある。</p>

## 資料1 各エゴグラム・パターンの特徴（その3）

エゴグラム・パターン	得点パターン	TEGによる性格解釈
台形(1)型	CP:低 NP:高 A:高 FC:高 AC:低	健康的で明るいタイプである。仕事もできるし、遊びも楽しくできる。自分に対しても肯定的に見ることができる。何事も無難にこなすために、何か物足りなさを感じていることもある。
台形(2)型	CP:低 NP:高 A:高 FC:低 AC:低	思いやりが強く、他人の世話や社会に奉仕することが好きである。また、活発に行動するタイプである。しかし、相手に奉仕する反面、自分が楽しめない場合があったり、時に、相手のためによかれと思ってやったことで、厚意を押しつけてしまっている場合がある。
台形(3)型	CP:低 NP:低 A:高 FC:高 AC:低	能力が高く、仕事もできる。自分にとって損が得かということがとても重要な価値観となっている。仕事は生活の手段で、人生を楽しく過ごしたいと思うタイプであろう。CPが低すぎる場合は責任感に欠ける面が、NPが低すぎる場合は思いやりに欠ける面が、ACが低すぎる場合は協調性に欠ける面がある場合もある。
U(1)型	CP:高 NP:低 A:低 AC:高 FC:低	協調性が高く、忍耐強く物事に取り組むタイプである。一方で、自分に対しても他人に対しても要求水準が高い方なので、自分がいざ物事を決断するときに、いったん迷い始めると、なかなか決断できなくなり、につきもさつちも行かなくなることがある。
U(2)型	CP:高 NP:低 A:低 FC:高 AC:高	性格的には明るいほうであり、協調性も高い。一方で、自分に対しても他人に対しても要求水準が高い傾向がある。また、他人がどう考えているかを意識しやすいタイプである。自分の考えが他人に十分理解されていないときなどに、イライラを貯め込みやすい。
U(3)型	CP:高 NP:高 A:低 AC:高 FC:低	世話好きで人に好かれるタイプ。協調性も高い。自分に対しても他人に対しても厳しい面がある。そのため、周りのことを考えて無理にがんばることも多い。しかし、自分の気持ちを表現するのは苦手であるため、周りにはそうした行動が気づかれにくく、そうした場合には、落ち込んでしまうこともある。



## 資料1 各エゴグラム・パターンの特徴（その4）

エゴグラム・パターン	得点パターン	TEGによる性格解釈
N(1)型	CP：低 NP：高 A：低 AC：高	何事にも一生懸命で物事に対して真面目に取り組むほうである。他人に対する思いやりの気持ちも強く、また、協調性も持ち合わせている。人から何かを頼まれたら「ノー」と言えないタイプであろう。まわりの人からは、やさしくて、適度に明るく、公正な人と見られやすい。
N(2)型	CP：低 NP：高 FC：低 AC：高	まわりの人に対する思いやりの気持ちが強く、また、世話好きなほうである。協調性も高く、社会的な場面では適度にうまくふるまえるので、まわりの人からは頼りにされやすい。自分の気持ちを抑えて、まわりの人のお世話をしてしまうこともしばしばある。
N(3)型	CP：低 NP：高 A：高 FC：低	仕事の能力が高く、不平をもらさず、的確にこなす。また、まわりの人に対する思いやりの気持ちもあり、なおかつ協調性も高い。本人はそのことにははっきり気づかない場合も多いが、まわりの人にとっては貴重な存在である場合が多い。
逆N(1)型	CP：高 NP：低 A：高 AC：低	物事を合理的に考えるタイプである。現実場面で遭遇するさまざまな問題も適切にこなすことができる。性格的にも適度な明るさを持っている。自分に対しても他人に対しても要求水準が高い傾向があり、また、物事が予定どおり進むのが好きなほうである。そのため、他人がルール破ったり、物事が予定どおりに進まないといライラする場合がある。
逆N(2)型	CP：高 NP：低 FC：高 AC：低	明るく天真爛漫で、自己主張も強い方である。現実場面で遭遇するさまざまな問題も適切にこなすことができる。まわりの人からはもてはやされやすいタイプであろう。一方で、自分に対しても他人に対しても要求水準が高い傾向があるが、落ち込んでクヨクヨしたりすることは少ない。
逆N(3)型	CP：高 A：低 FC：高 AC：低	天真爛漫で自己主張が強い方である。他人に対する思いやりも持ち合わせている。自分の価値観で、思いついたらすぐに行動に移すタイプである。そのために失敗することもあるが、それを引きずってクヨクヨすることは少ないほうである。

## 資料1 各エゴグラム・パターンの性格の特徴(その5)

エゴグラム・パターン	パターンの特徴	TEGによる性格解釈
M型	CP:低 NP:高 A:低 FC:高 AC:低	人情味豊かな人柄なので、まわりの人からは慕われる、頼りにされるタイプであろう。また、自己主張も強いほうである。しかし、世話好きな人柄の反面、どちらかと言えば、気分にはムラがあるほうなので、行動を決定するときに、その時々雰囲気によって左右されやすい傾向がある。
W型	CP:高 NP:低 A:高 FC:低 AC:高	責任感が強く、現実的な問題をきちんと解決していくことができるタイプである。物事に対するけじめもある方である。また、協調性も高い。しかし、自分の感情を表現するのは苦手で、その分、イライラする気持ちを貯め込み、逆に自分が落ち込んでしまうということになりやすい。
平坦(1)型	全ての尺度得点が高い	仕事から遊びまで、何事にもエネルギーに組み込む。責任感もあり、まわりの人に対する気配りもできる。何をやっても平均以上にできてしまうほうであるが、あまりにその状態が長く続くと、オーバーヒートしてしまう場合がある。
平坦(2)型	全ての尺度得点が平均	何事においても、中庸をめざすタイプである。人間関係でも、仕事でも、大きな失敗をすることは少ないほうである。無理なく生活している状態であると言える。
平坦(3)型	全ての尺度得点が低い	外で活発に活動するよりも、静かにじっとしていることを好むタイプである。友達とおしゃべりをしたりということが苦手で、まわりには静かな人という印象を与えやすい。社会的な活動を必要とする場面で困難を感じることもある。
P優位型	CP:高 NP:高	勤勉で義務感が強く、同時に、他人には優しく面倒見もよいタイプである。このため、まわりから高い信頼を得られる。面倒を見ようとする気持ちが強いあまり、それが相手に対しての厳しい態度となってしまう場合もある。仕事熱心でまわりのお世話を焼きすぎてストレスをため込んでしまう場合がある。

## 資料1 各エゴグラム・パターンの性格の特徴（その6）

エゴグラム・パターン	パターンの特徴	TEGによる性格解釈
C優位型	FC：高 AC：高	明るく自分の気持ちを素直に表現し、また、一方では、まわりの気持ちを敏感に感じ取り、うまくあわせていけるタイプである。しかし、社会的な責任の関わる仕事や、現実的な対処が求められる場面は苦手な面がある。まわりにうまくあわせていけている間はよいが、そうではなくなった時には不安になりやすい、

- 1) 各エゴグラム・パターンの詳細については、東京大学医学部心療内科(1995)を参照のこと。

## A study of students' personality tendencies in an institute of technology

Naoki Ito

This study examined students' personality tendencies at an institute of technology. The TEG (Tokyo University Egogram) personality test was administered to 211 students (209 males and 9 females). Results indicated that the score on the AC scale is high and the other scales are low for males, while the CP scale and A scale are high and NP scale and AC scale are low for females. Subjects' personality tendencies were classified by their egogram patterns, which revealed that the subjects' distribution is different from that of general groups. Results thus demonstrated that it is important to understand these differences in students' personality tendencies at an institute of technology for the purpose of providing students with a better education.